



SALVATIONIST

ときのこえ

2022年標語「わたしたちを救われる神」(詩編40編2～4節)



二〇二二年 九月十五日 発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行(除く七月)

初秋号

広報版

2022

September-October

No.2840

2022年 救世軍標語

「わたしたちを救われる神」

詩編 40 編 2～4 節

ときのこえ SALVATIONIST

初秋号 広報版

2022 September – October

NO.2840

もくじ

■メッセージ	わたしたちの国籍は天にある 中將 張田 和子 …… 3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第22回	ジョン・ウェスレーの聖潔 一心うちに燃えて— 少佐 丸畑 幸夫 …… 4
■集会報告	イースターコンサート 2022、創立記念 コンサート & 士官候補生夏期訓練任命 集会 …… 5
■集会報告	司令官及び軍国女性部会長就任式、連合 聖別会 …… 6 女性の働き 100 周年記念行事 …… 7
■各地のニュース !!	北海道連隊 …… 7 佐野こどもクラブ、ゴスペルハウス、関東 東北連隊 …… 8 福岡小隊、杉並小隊、静清小隊、神田小 隊、大森小隊 …… 9
■YP (青少年部)・ファミリーニュース	関東東北連隊、東京東海道連隊、西日本 連隊 …… 10 名古屋小隊、佐野小隊 …… 11
■〔連載〕各地の小隊から 第4回	泉尾小隊 …… 11
■各地のニュース !!	恵泉ホーム、横浜小隊、佐野小隊、渋谷 小隊、任官五年以内士官講習会、全国士 官会 …… 12
■社会鍋による支援	福岡小隊、上野小隊 …… 13
■第6回救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞 作品	…… 13
■救世軍見解表明	社会道德に対する救世軍の立場 第8回「平和の構築」(2) …… 14
■〈連載・第16回〉	神の呼びかけ～神の民となるために～ (6) 兵士となることへの呼びかけ…… 14
■救世軍公報／召天記事	特集 救世軍墓所 …… 15
■各地のニュース !!	京都小隊、江東小隊、西日本連隊 …… 16



9月25日(日)

人身取引被害者のための世界祈禱日

今年もこの問題を覚え、世界で、また日本で
さまざまな形で自由を奪われ困難な中に置か
れている人々のため、祈りましょう。



@SAArmyJP



SAArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりとり

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名

ご住所

表紙の写真: 7月16日、司令官及
び軍国女性部会長就任式で。(下)
7月17日、連合聖別会での合唱。
(記事6ページ)

わたしたちの国籍は天にある

中将 張田 和子

たくさんの方から心のこもった弔電をいただきました。その中の一つに、「わたしたちの国籍は天にある」とだけ書いてありました。「だけ」と私は今書きましたが、それだけで十分なのでした。

主人は二〇二〇年十二月の最後の日曜日の御用を桐生小隊で済ませて、帰って来ました。熱があるみたいだと言うので、休ませて、翌日、かかりつけの医者に行き、薬をもらい、年が明けて大きな病院で検査を受け、最後は自宅で緩和ケアを受けたいと申し出ました。病んでから一カ月半で召されました。

召される一週間前に、彼は罪人である自分を救い、導かれた神の恩寵を感謝する、とパソコンで打ち、プリントしていました。愛の御腕に抱かれたのですから、私も安心いたしました。

私たちは過ちの多い、罪深い者ですが、神はキリストの十字架の血によって私たちを贖い、罪を赦してください、と聖書にあります（エフェソ1・7）。私たちは赦されて生き、赦された者として神の御手の中に帰って行きます。主イエス様が「あなたがたのために場所を用意しに行く」と約束してくださいとおりです。地上の生活を終えた者は、真のふるさとである神の御国に帰り、やがて「復活して朽ちない者とされ」（コリント15・52）るのです。

まだ話ができる時に、「後のことは、すべておま

えに任せる」と言いますので、私は自分の胸をポンと打って、「お任せください」と答えました。（いつも「お母さん」とか「あんた」とか言っていたのに、「おまえ」と言われて、なんか威張ってるな、と思ったのですが）後のことも、子どもたちに助けられつつ、一つひとつ、進めることができました。

しかし、あまりにも急に逝ってしまったので、慣れない一人暮らしが始まると、悲しみというより、淋しさのためか、落ち着かず、気持ちがそわそわしていました。

もっとああしてあげればよかった、あんなこと言わなければよかった、と自分を責めることばかりでしたが、赦してもらおうかしやうがない、と思えるようになりました。「あれが神様の時だったのだ」と受け止めることができるようになりました。

あれから一年以上過ぎました。神様のお恵みに包まれ、家族、親族、友人、知人、たくさんの方々の配慮や親切に包まれて過ごさせていただけのことを感謝しています。

「やがて死のふちに わたしは立って
救いをたたえて み国にかえる」

（『救世軍歌集』161番4節）

「わたしたちの国籍は天にある」（ピリピ3・20 口語訳）のですから感謝です。（引退士官）



【賛歌。ダビデの詩。】

主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴ひ
魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖

それがわたしを力づける。

わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる。
わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくださる。

命のある限り

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

主の家にわたしは帰り

生涯、そこにとどまるであろう。

（詩編23編）

連載 聖潔の流れに立つ 第二十二回

ジョン・ウエスレーの聖潔

— 心うち燃えて —

少佐 丸畑 幸夫

プロローグ

ブース大將は、「自分はウエスレーのやり残した仕事にとりかかるのだ」と言ったことがある。しかし、ウエスレーとブース大將との間には互いの活動の創始に百年以上の隔りがあるので、この両者を結びつけるということは、困難な点がある。しかし、実際には、ウエスレーの精神を大將は継承しているのである。

キリスト教の歴史の中で、ジョン・ウエスレーの時代ほど、神に対する畏れと聖なる思いを、人々が求めた時はなかったように思われる。一方で、この時代ほど英国がスラム化した時代はなかったようである。産業革命によって繁栄した時代に、路地裏では人間が人間らしく生きられない状態で苦しんでいた。

ジョン・ウエスレーは、この時代と教会に対して清い精神をもって浄化を図ったが、彼のこの精神が、救世軍によって受け継がれた。この双方によって社会に對し直接的にキリスト教が貢献した。このような時代はまれである。ウエスレーの時代までは、孤児院や貧民銀行を創設したり、刑務所を慰問したりすることは、キリスト教会の中にはなかった。いわゆる社会事業というものはなかった。ウエスレーの時代にいたって、キリスト教と社会事業とが結ばれるという傾向が出てきた。だがウエスレーは、この事業が未完成のままこの世を去った。そこで、キリスト教と社会事業を結び

つけるのを実際に成功させたのは救世軍であった。救世軍が歴史の中で継承してきたものは何であったのかを考えるなら、まず、ウエスレーの「神に対する聖なる思い」と言われるもの、そして、社会の中に浸透している、困っている人に手を伸べる、「心は神に手は人に」という精神を救世軍が実際に生かしたことがあると言えよう。

そういう意味で私たちは、真に誇るべき立場に立っているし、その歴史も単にブースが考え出した、というのではなく、過去の古い時代、アウグスティヌスやフランチェスコその他、多くの先達たちの精神を継承して救世軍となり、これが花開いたのである。ウエスレーは説教の中で、「私はこれまでになく、半分ほどキリスト者であることの不可能さを確信させられた」と言っており、著書『Almost Christian』（オールモスト・クリスチャン、〈ほぼキリスト者〉の意）というタイトルの文章がある。

以前、財務部長であったオール少佐のお供をして、地方に出陣した折、オール少佐が「オールモスト・クリスチャン」の話をされた。私は、その内容の出所は、ウエスレーの説教中からだと推察していたが、少佐は、話をこのように展開された。

『オールモスト・クリスチャン』であるということには褒めたことではない。例えば、『都電がやって来た。急ぐので発車寸前に飛び乗った。そうするとドアにはさまれてしまった。その時、私はほとんど乗っているのだと言っても、電車は発車してくれないだろう』と言うのである。体をはさまれたまま、電車が発車するということはあり得ない。だから「私は、ほとんどはクリスチャンだ」と言ってもそれは通用しない。「クリスチャン・パーフェクション」すなわち「キリスト者の完全」ということが神から要求される。

それではクリスチャンの完全とは、何を意味するのか。それは道徳的意味の完全なのか、律法であるモー

セの「十戒」を完全守ることなのか。それは、神に私のすべてを献げよとの意であろう。

ジョン・ウエスレーは十九人兄弟であった。エブワースという川のある町で、彼の父は牧師をしていた。父サムエルは一本気の人で、隣人の反感を買っていた。彼が六歳の時、父の牧師していた牧師館に火がつけられ、全焼してしまった。ウエスレーがそれに気づいた時には、すでに火の海になっていた。母親は気が動転し父サムエルはそれが自分の妻だとはわからないほどだったらしい。ウエスレーは家具の上ののって、泣きわめいていたようだ。近所の人たちが彼を助け出したのである。これがウエスレーの生涯に大きなインパクトを与えた。火事の怖さについてこう言った。

「私は焼けぼっくいのような人間であったのだが、神が私を召してくださいました。聖なる業に召してくださいました。当然あの時、天に召されているはずのところ、神は何かの目的があつて、この火事場から救い出してくれたのだろう」とレリーフにその様子を書き残している。

父サムエルは当時、英国国教会（聖公会）に属していたが、清教徒の感覚の強い人であった。祖父も英国国教会に属していた者であったが、そのやり方が清教徒のようで聖公会らしくない、ということと教会から追い出された人であった。ウエスレーの家系からすると、彼の中にも非国教会的などころがあつたことは否めない。母のサザナ・ウエスレーは、清教徒のパウロと呼ばれる人の娘であつたために、その父の影響は十分に考えられるので、その息子ウエスレーは聖公会一色の人ではなかったことがわかる。彼が幼い時に学んだのは清教徒の学校であった。後に聖公会の大本山所属のオックスフォード大学で国教会教育を本格的に受けることとなった。それにしても、家族からの影響は、後々まで色濃く出ているであろう。

（続く）

集
会
報
告

イースターコンサート2022

4月17日(日) 午後6時 YouTube ライブ配信

創立記念コンサート & 士官候補生夏期訓練任命集会

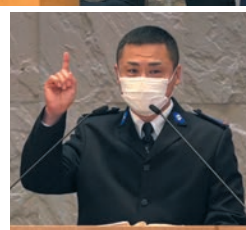
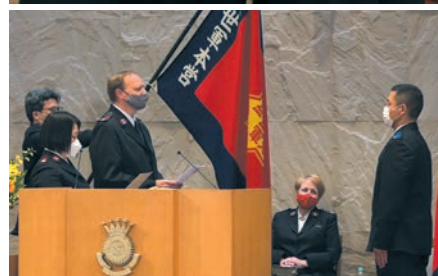
6月12日(日) 午後4時30分、午後5時 YouTube ライブ配信

●イースターコンサート 2022

軍国女性部書記西村和江少佐の司会で進められました。ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)フルバンドの事前録画による演奏「さかえの父」で開会。司会者は救世軍について、また、2月末に発生したウクライナ危機に際しての現地救世軍の支援活動の紹介をしました。ギター、ウッドベース、ピアノを交えたJSBアンサンブル生演奏、事前録画でのジャパン・スタッフ・ソングスターズ(JSS)の演奏があり、軍国女性部書記が、復活の主イエスが与えてくださる真の平和、苦難の中にも奪われることのない魂の平安、和解と希望についてメッセージを語り、祈りを献げました。(視聴回数2,631回、8月10日現在)



続いて、午後5時から「士官候補生夏期訓練任命集会」が生配信されました。人事・教育部長、士官学校長代行(兼)添田美和少佐の司会で進められ、席上、士官の永年勤続章が30年章—石川節子少佐、40年章—藤井千明大佐補、藤井健次大佐補、45年章—鈴木雅子少佐、徳永由美少佐に授与されました。『聖潔を映し出す者』の学年の吉田慎也候補生は、関東東北連隊本部に夏期訓練の任命を受け、司令官から辞令を授与されました。候補生は「神様の道具としての自分自身を顧み、神様が受け入れてくださっていることを感謝する。神様との深い交わりを第一にし、神様との関係を回復させてください、という祈りを続けたい。砕かれた心による祈りを神様は喜んでくださることを教えられている」と証言。司令官はマルコ6:7～13より「わたしたちは一人で、自分の力で伝道に遣わされるのではない。聖霊が共に行き、神が備えてくださる権能によって、神の御国を建設する働きが進められる。候補生だけでなく、すべての救世軍人を通して神は働こうとしておられる」とメッセージを語りました。(視聴回数1,259回、8月10日現在)



●救世軍創立157周年記念コンサート & 士官候補生夏期訓練任命集会

6月12日(日)、「創立記念コンサート」は午後4時30分から社会福祉部長石川一由紀少佐の司会で進められ、JSBアンサンブルによる演奏とJSSの合唱(事前録画)がありました。救世軍の創立の歴史やウクライナ支援、昨年一年間の活動がスライドで紹介された後、第6回救世軍社会鍋俳句コンテストの受賞作品と佳作が発表され、選者の唐澤南海子先生の選評が朗読されました。



士官志願者サンデー 10月2日(日)
士官志願者及び献身者祈祷週間
(※今年から名称が変更されました) 10月2日～30日

テーマ「互いに祈り合う」

昨年に続き、パートナー小隊を決めて祈り合います。詳しくは後日、士官志願者部よりお知らせがあります。



召天者合同記念会 10月8日(土)

詳細は各小隊、関係者への案内にてご確認ください。

ブライアン・ペドル大將
ロザリー・ペドル中將
11月来日!

〈スケジュール〉

11月17日(木) 来日

11月18日(金) [午前 大阪へ移動]
17時 西日本連隊連合集会
於) スイスホテル南海大阪

11月19日(土) [午前 東京へ移動]
14時 全国士官会 17時30分 伝道コンサート
於) 日本教育会館一ツ橋ホール

11月20日(日) 10時 連合聖別会 於) 共立講堂

11月21日(月) 離日

今回の諸集会は、大將夫妻と日本の戦友が身近に会うことを願い計画されます。お二人を通して回復と祝福のメッセージを受け、新たな歩みを進める時となるよう期待しましょう! ※予定は変更の可能性あります



集
会
報
告

司令官及び軍国女性部会長 就任式

7月16日(土)午後2時 ベルサール飯田橋駅前 YouTube ライブ配信併用

連合聖別会

7月17日(日)午前10時30分 ベルサール飯田橋駅前 YouTube ライブ配信併用

●司令官及び軍国女性部会長就任式

4月30日(土)に来日した司令官夫妻はすでに精神的に軍国の指揮にあたっていました。この日、ついに就任式がおこなわれました。

土曜日の午後、会場には戦友たち、午前中の全国士官会に出席した士官たちが集いました。定刻、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)アンサンブルが演奏するマーチの中、軍旗を先頭に司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が入場。集会は書記長官西村保大佐補の司会で進められました。会場には司令官夫妻の士官学校学年旗も掲げられました。会衆一同で「主なる神にさかえあれ」を高らかに賛美し、東京東海道連隊長石川和男少佐が神の臨在と導きを祈り求めました。司式者の吉田真中将は、ブライアン・ペドル大將からのメッセージを読み上げ、続いて就任式を執りおこないました。式文を通して司令官及び軍国女性部会長の献身が厳粛に確認され、日本軍国の指導者としての誓約がなされました。

JSBアンサンブルの演奏に続き、熊田栄一曹長(横浜)が日本の救世軍人一同を代表し「日本の救世軍という船について船長を迎えられたことを喜ぶ」と歓迎の言葉を述べました。ジャパン・スタッフ・ソングスターズの合唱「みひかりのうちに」の後、司令官と軍国女性部会長が



就任式に臨む司令官夫妻と司式の吉田中将

それぞれ挨拶をしました。吉田真中将は、「無くてはならないもの」と題して使徒20:17～24よりメッセージ。

「パウロは『神に対する悔い改めと主イエスに対する信仰』を、謙遜に、神の恵みによって証しし続けた。すべての兵士と士官も献身を新たにし、人々の救いのため、神の働き人として進もう。」会衆は火のバプテスマが全軍に降るようにとの祈りを込めて「万国の神なる」を歌い、閉会しました。(会衆161人、動画視聴回数8月10日現在1,523回)



熊田曹長



吉田中将

●連合聖別会

司令官指揮の連合聖別会に期待をもち、日曜日の朝、士官、戦友たちが集いました。開会前にはJSBアンサンブルとキーボードの演奏で礼拝への心備えがなされました。集会は軍国女性部書記西村和江少佐の司会で進められ、宇賀神努ワシッップ軍曹(杉並)が開会祈祷を献げました。席上、樋口和光少佐、樋口愛子少佐の引退式が司令官司式で執りおこなわれました。それぞれ40年を超える士官としての献身に感謝があらわされ、一同恵みにあずかりました。

軍国女性部会長は、過去の任命を通じて経験した神の助けを振り返り、新任命における神への信頼を証しました。続いて司令官及び軍国女性部会長は、JSBの合唱に加わり、「とこのよのいわよ」をアカペラで歌いました。司令官は「流れのほとりに植えられた木は豊かな実を結ぶ」(マタイ5:14～25)と題してメッセージを語り、「激動の時代において救世軍人一人ひとりが原点に立ち返り、日々聖書の御言葉を読み、御言葉に立ち、御言葉に示されたところに従って外の人々に証言



宇賀神努ワシッップ軍曹



樋口和光少佐、樋口愛子少佐へ引退書が渡された



をするように」と勧めました。コーラスを歌いながら祈りの時が導かれ、恵の座で祈る人々がありました。(会衆185人、恵の座8人、動画視聴回数8月10日現在2,055回)

コロナ感染者数の急激な上昇局面での集会ででしたが、広い会場に十分に間隔をとって座席を並べ、受付で係による検温と手指消毒をおこなうなど、細心の感染症対策をとり実施しました。クラスターの発生などもなく、祝福のうちに二日間の集会をおこなうことができました。

集会 報告

女性の働き100周年記念行事

テーマ「共に歩む～いつも変わらないキリストを中心として～」

6月24日(金) 午後7時30分 ポットラックパーティ(事前申込制) Zoom

6月25日(土) 午前10時30分 記念集会、午後1時30分 記念講演会 杉並小隊、Zoom

●ポットラックパーティ

このプログラムには、30代から50代を中心とした女性たちがZoomのオンライン会場に各自がスイーツと飲み物を用意して集いました。杉並小隊から発信された3人の進行役のリードに従い、賛美と北海道連隊女性部書記 石坂奈緒美少佐によるメッセージの後、少人数に分かれての分かち合いをおこない、日頃の思いを語り合う機会となりました。(38人)

●記念集会

杉並小隊を対面会場としてZoomによるオンラインとの併用でおこなわれました(対面66人、オンライン約123人)。軍国女性部書記 西村和江少佐が司会をし、全国から200人以上が参加したりモートタンバリン動画が開会を飾りました。軍国女性部会長 ウェンディ・モーリス大佐を歓迎し、オンラインでの参加者も含めお互いを歓迎しました。木村恵子家庭団会計(渋谷)が祈禱を献げた後、着物を着た山室機恵子役、詰襟制服の秋元春馨中佐夫人役の登壇をはさんで「スライドで振り返る100年の歩み」が進められ、その時代ごとの女性の働きを思い起こす時をもちました。上坂頼子分隊長(天満)と生井明子家庭団員(帯広)が証しをし、ウェンディ・モーリス大佐がエフェソ2:14～22より「変わることをない私たちの神」と題してメッセージをしました。集会後、対面会場では感



ウェンディ大佐と通訳の中島大尉(右)

染対策をとって昼食をそれぞれいただき、同時に伝道事業部による手仕事マルシェでの手芸品販売や、供給部出張販売を楽しんで、交流の時をもちました。

●記念講演会

天満小隊から、西日本連隊女性部書記 鈴木真理子大尉の司会で進められました。神戸にある「マナ助産院」院長の永原郁子氏による動画から、聖書に基づく命と性のすばらしさ、「小さないのちのドア」の働きを通して、目にする妊娠や中絶でつらい思いをしている女性たちの現状と、永原氏の証言を聴き、それぞれの会場内、またオンライン上で感想を分かち合いました。2人が代表して感想を発表し、最後に総評と閉会祈禱ですべての記念行事が締めくくられました。(オンライン約128人)



杉並会場のようす。スクリーンを通してオンライン参加者とも一緒に記念撮影

NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

北海道連隊

●連合聖別会、連隊指導者就任式

7月3日(日)、札幌小隊に、司令官スティーブン・モーリス大佐、軍国女性部会長 ウェンディ・モーリス大佐、通訳の中島美和大尉を迎え、北海道連隊連合聖別会をおこないました。遠軽、帯広、函館の各小隊は、それぞれの会館に集まりオンラインにて視聴参加しました。

この特別な集会への招きとして、帯広小隊士官 樋口潔中尉、光世中尉による「ワン・ボイス」の賛美動画が流れ、開会しました。司会は連隊長石坂臣司少佐。開会祈禱を遠軽小隊士官 眞鍋精一少佐が献げ、司令官の挨拶に続き、北海道連隊長及び北海道連隊女性部書記の就任式が司令官、軍国女性部会長の指揮で執りおこなわれました。続いて石坂臣司少佐、石坂奈緒美少佐に士官永年勤続25年章が授

与されました。連隊女性部書記が証言。桂畑宏子家庭団会計(札幌)が聖書朗読をし、司令官がメッセージ「常に神の言葉から始める」(ヨハネ1章)を語りました。

集会後、オンラインで道内の各小隊と短い交流の時をもちました。今回は、連合聖別会オンライン配信のため、本営伝道事業部メディアチームが来札し奉仕しました。(会衆25人、各小隊視聴参加24人、視聴回数8月10日現在659回)



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

佐野こども
クラブ

●非常食訓練

3月31日(木)、災害時にライフラインが止まった時を想定し、子どもたちの昼食をどのように提供することができるか練習しました。春休みなど小学校が休みの時には、厨房より、サントス・ランチサービスさんがおいしい給食を準備してくださっていますが、この日は、非常食訓練として、園庭側のウッドデッキを炊事場にして

作業をしました。

プロパンガス、非常用ペットボトルの水、アルファ米、レトルトカレーなど、普段と違う雰囲気の中でできあ

がった昼食を、子どもたちは保育園の廊下に座って黙食しました。39人の子どもたちと職員に、合わせて50食が提供されました。



ゴスペルハウス

●第2回仕事マルシェ

5月19日(木)、20日(金)に、本営前にて開催しました。14小隊21人から手芸品が296点寄せられました。今回、初の試みとして、制作者の氏名やメッセージが書かれたポップ(広告)を展示したことにより、お客様に安心を提供できました。開催当日は好天に恵まれ、2日間で194人の方々が買い物を楽しみました。男性向けの作品もあったので、前回2割程度だった男性が、4割ほどに増加しました。コロナのためにイベントが少なくなっていた神保町の方々には、良い交流の機会となったと喜んでいただけました。また、マルシェをきっかけに、近隣の出版社勤務の方と神田小隊士官との繋がりができたり、30代のビジネスマンの方がゴスペルハウスに来てくださるようになるなど、コミュニケーションが生まれました。なお、売上げはウクライナ難民支援のために役立てられます。



開場前の祈り

今後も継続して開催を予定しています。神保町の通行人の7割は男性のため、次回は男性の制作者にも、もっと参加していただきたいと願っています。全国の制作者とお祈りくださった方々に心より感謝申し上げます。多くの出会いを与えてくださった神様に感謝します。(ゴ

スペルハウス担当者報)



関東東北連隊

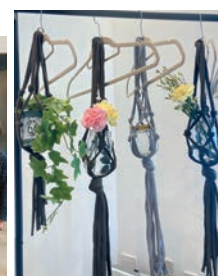
●女性交流会

5月25日(水)13時より高崎小隊を会場に、連隊女性交流会がおこなわれました。

毎年この時期に、女性部ラリーが開催されてきましたが、今年は日本における女性の働き100周年記念集会のプレ集会として、関東地区の5小隊から27人、東北地区の2小隊からオンラインで8人が参加しました。

一部の礼拝では、『救い』となった真っ赤なひも」と題して、連隊女性部書記藤井千明大佐補が、ヨシュア記2章1節(後半)より、『いのちのこぼれ 旧約聖書・新約聖書を学ぶ』(志村善也著)を引用してショートメッセージをしました。集会献金は100周年記念献金として献げられ、横山令子家庭団書記(高崎)が感謝祈祷をしました。対面及びオンラインで参加している各小隊の女性が紹介された後、張田和子中將が祝福のお祈りを献げました。

二部は、Tシャツヤーン(綿紐)を利用したアップサイクル(創造的再利用)の作品披露や、連隊リモートバンドプロジェクト第3回目の「主のみ救い」に合わせ、河野多実子青少年部副曹長(高崎)の指導で、タンバリン練習をしました。参加者一同、久しぶりの対面集会に大きな祝福を受け散会しました。

Tシャツヤーンで作った
プラントハンガー

9月22日

救世軍日本開戦
127周年記念日

感謝祭募金 9月15~30日

福岡小隊

●家庭団例会

4月10日(日) 棕櫚^{しゅうろ}の主日の午後、来週のイースターを心待ちにして、齋藤美作少佐の指導で、和紙を用いたイースターエッグ制作を楽しみました。(参加者7人)



●召天者合同記念聖別会、墓前礼拝

4月17日(日)におこない、三澤良子少佐が説教をしました。(出席者17人) 午後は平尾霊園小隊墓所にて、墓前礼拝。齋藤美作少佐が説教をしました。すばらしい天候のもと、この時しか集えない方との久しぶりの再会もかない、良い時となりました。(出席者18人)



杉並小隊

●森の音楽会

5月22日(日)、3年ぶりにブースの森で「森の音楽会」を開催しました。山谷真少佐の司会で進められ、杉並バンドの演奏やタンバリン操練、メッセージなどをお届けすることができました。

ポスターを見て問い合わせで来られた方、また「音が聞こえたから」と言って来られた方、通りすがりの方などが集っていただきました。奉仕者も3年ぶりの外に向けての戦いに喜びを抱き、「楽しかった、毎月やりたい」という声が上がりました。コロナ禍で内向きになった霊が燃やされる時となりました。(会衆55名)



静清小隊

●召天者合同記念聖別会

6月26日(日)におこないました。昨年同様、コロナ感染防止の観点から、会場を借りての開催となりました。東京東海道連隊長 石川和男少佐が指揮し、同連隊女性部書記 石川節子少佐が召天者の思い出を語りました。

戦友、召天者のご遺族、ご家族が共に集い、信仰の先



写真撮影時のみマスクを外しています

達^{だつ}を偲^{しの}び、天国を覚える時でした。また、遠く大阪からの出席者や、召天者の曾孫^{ひまご}にあたる赤ちゃんも一緒に出席したことは、大きな感謝でした。(出席27名)

神田小隊

●召天者合同記念聖別会

6月19日(日)、吉田真中将・かほる中将出陣で、3年ぶりに対面でおこないました。53人の方々が集われました。西宮渡會計が召天者名簿を朗読、代表で献花がなされました。吉田真中将はフィリピ2:12～18より「星のように輝く」と題しメッセージしました。



大森小隊

●召天者合同記念聖別会

7月3日(日)午前10時30分より、吉田真中将・かほる中将の出陣でおこないました。召天者名簿朗読がなされ、思い出が語られました。吉田真中将はヨハネ11:25～37より「涙を流すイエス」と題して説教し、信仰の先達方、主にある兄弟姉妹を偲^{しの}び、豊かなお恵みの時を過ごしました。(小隊報)



YP (青少年部)・ファミリーニュース

東京東海道連隊

●青年デー 2022

5月3日(火・祝)～5日(木・祝)、霊的生活成長部長 中島美和大尉を迎え、「奥多摩福音の家」でおこないました。3年ぶりの対面での青年デーとなり、青年たちの成長ぶりに驚き、また初参加の青年もあり主に感謝しました。

期間中、全体を3つのグループに分け、ゲームや分かち合い、祈りの時をもち、つながりが深まりました。初日のウエルカム・ナイトではチーム対抗のゲーム大会の後、中島大尉によるメッセージ、2日目は祈祷会から始まりハイキング、運動会、バーベキュー、キャンプファイヤー。最終日は閉会集会をおこないました。

中島大尉は「世界の終わり」をテーマに4回のメッセージをし、終わりの近いこの時代、ただ恐れるだけではなく、正しい終末の理解、そしてわたしたちと神様との関係について聖書の中から解き明かしました。青年からは「初めて終末について聞いた」、「聖書をもっと学びたい」という声が上がりました。今回は青年が企画・実行を務め、また賛美チームも青年有志により結成されました。全員が主にあって一つとされ、その感動と恵みは言葉では表すことのできないほどで、大きな喜びをいただくことができました。(参加者33人)



関東東北連隊

●ユース・スプリング・デイ・キャンプ

5月3日(火・祝)午後、高崎小隊でおこないました。司令官及び軍国女性部会長が指揮、通訳は山谷真少佐。全員が事前に簡易検査キットで抗原検査をしてから参加しました。前日に会場が佐野小隊から高崎小隊へ、プログラムも半分に変更するハプニングの中でも、共に集うことをテーマに、無事、開催することができました。

この3日前に来日したばかりの司令官夫妻にとっては、これが日本で最初の公式集会となりました。前橋小隊士官田口哲也少佐が司会し、開会祈祷を高崎小隊の河野佑介さんが献げました。仙台小隊士官眞鍋嗣道中尉、眞鍋恵中尉が賛美とゲームを導き、インターネット配信(Zoom)で画面越しに参加した子どもたちとも楽しい時を過ごしました。司令官及び軍国女性部会長は「どのように待てばよいのか?」(ヨハネ3:16～17)と題して、二人で交互にメッセージを語りました。また、子どもたち向けに高崎小隊士官細貝のぶ江大尉、細貝信義大尉が「ノアの箱舟」の紙芝居を配信し、音響効果等をつけながら上演しました。2時間ほどの短い集会でしたが、3年ぶりに集うことができた青年たちは、共に集う恵みと司令官夫妻との親しい交わりに大きな喜びを得ることができました。

(参加者22人)



西日本連隊

●青少年特別伝道・希望館コンサート／ジーザスナイト

青年デーに代わり、新しい形での青少年への特別伝道企画として、5月11日(水)～12日(木)、ゲストに「ナイト de ライト」ボーカルの平野翔一さん、青少年部長朝澤義人大尉を迎え、コンサートをおこないました。

11日(水)ー希望館コンサートでは、幼児から中学生を対象に子どもたちの年代等に合わせて3つのグループに分かれ、低学年のグループでは「しもべあの大冒険」のペーくんと連隊女性部書記鈴木真理子大尉による賛美、連隊長鈴木智博大尉のリードでゲーム。高学年のグループでは、平野さんの歌、青少年部長のショートメッセージがあり、子どもたちが笑顔で楽しむ姿、また歌の歌詞とメッセージに聞き入る姿がありました。(児童38人、職員21人、スタッフ9人、計68人)

12日(木)ー大阪セントラルホールで「ジーザスナイト」コンサートを開催しました。事前の申し込みによる

会場参加(救世軍内部、外部支援先高校生、関係者含)、青少年部公式 YouTube チャンネルでの当日限定公開ライブ配信のハイブリッド方式でおこないました。このコンサートには、しばらく小隊での集会には参加していなかった若い方や、社会鍋資金での食糧支援を通じて関わりができた高校の生徒も参加しました。

迫力ある平野さんの歌と真実な救いの証言、また青少年部長によるメッセージと祈りによって、人生での希望と神様の愛が青年に向けて届けられました。集会後も会場は熱気に包まれ、平野さんと来場者との交流がありました。(会場出席14人、スタッフ14人、計28人、当日視聴回数32回、救世軍限定アーカイブ視聴回数8月10日現在424回)



名古屋小隊

●進級のお祝い

4月3日(日)日曜学校で進級祝いをおこないました。6人の小中高生が参加し、プレゼントを受け取り、ビンゴゲームを楽しみました。しばらくZoomを利用していましたが、久しぶりの対面で、それぞれの成長した姿を喜び合いました。



9月4日(日) 感謝と賛美のコンサート

救世軍公式 YouTube 配信

佐野小隊

●YPバンド、YPタンバリン

佐野小隊青少年部活動として、7月3日(日)より、バンドとタンバリン練習を始めました。コロナ禍の前に始める計画でしたが、聖日集会も楽器練習も積極的に練習することができなくなり2年が経過してしまいました。7月から感染防止に努めながら、子どもたちの熱い希望と奉仕者が与えられたことにより、毎週午後4時から会館を開放することになりました。第2回目の7月10日には、たくさん音が出るようになり、とても喜びました。

関東東北連隊リモートバンドプロジェクト第3回目「主のみ救い」の動画撮影を目標として、連隊青少年部書記細貝信義大尉の指導で取り組んでいます。



連載

各地の小隊から 第4回 泉尾小隊



小隊士官
本村いずみ少佐
本村大輔大尉

1915年に始められた免囚保護事業「希望館」が、その後、少年保護事業「希望館」に

変わり、さらに児童養護施設「希望館」となり現在の茨木に移ります。その中で、その建物の一部作業所を集会所として、当時の希望館館長 山野井大尉夫妻が小隊長を兼任。救われる人が増し加わる中、大日向大尉を迎え、小隊会館が、隣接する工場の跡地に希望館の卒業生の手助けによって建ち、1947年開戦となり今に至っています。その後、建物の老朽化に伴い、1964年新会館が落成。さらに2020年10月、現在の建物が新しく献堂されました。

泉尾小隊のある大正区は、かつて紡績産業をはじめとする軽工業の発展から多くの労働者が集まった地域で、今も多くの沖縄料理店や物産店があり、下町の懐かしい雰囲気を感じさせる場所です。この大阪において、体に対するケアと心に対するケ



ようこそ、泉尾小隊へ！

アを同時におこなう総合的伝道によって、泉尾小隊は福音を伝え、福音をおこなって今まで続いています。

最近では、以前、西成小隊での集会に参加していた方で泉尾小隊に通うようになった方もあります。かつての尼崎小隊、鶴橋小隊を含めて、関わり、つながりがあった人々がこれからも導かれることを祈っています。

新しい試みとして、今年から月に一度、聖別会を日曜学校スタイルにして、『こどものうたぼん』から賛美し、『日曜学校てびき』を用いて聖書交読や救世軍問答をおこない、メッセージも教案誌『成長』から選んでお話ししています。これは、戦友が主体となって役割を分担し、礼拝を企画、進行していけるように、また同時に子どもたちに向けた日曜学校や子ども会が開催できるように、との願いから始まりました。

また最近では、平日に集まれる方と一緒に「お仕事会」として、小隊の写真や記録の整理、掃除、『ときのこえ』や週月報の発送準備などをして、少しずつでもみんなで小隊の働きを担うことができるように取り組んでいます。

泉尾小隊がこれからも地域に開かれた小隊として用いられ、また隣接する区域を含めて救世軍の働きを支えていきますように願っています。



NEWS!! NEWS!!

各地のニュース!!

ずみ 20 周年記念バラ祭をおこないました。

席上、救世軍社会鍋俳句コンテスト佳作入賞の、浅野まり様表彰の時をもち、顧問の吉田眞中將から賞状が手渡されました。また、職員の永年勤続表彰があり、村上真施設長の 30 年勤続を筆頭に 4 人の職員の長年の働きに感謝をしました。司令官スティーブン・モーリス大佐はビデオメッセージで「いかに幸いなことか」と題して、詩編 1 編より語りました。



恵泉ホーム

●バラ祭

6月17日(金)、恵泉ホーム開設 45 周年記念・ケアハウスい

横浜小隊 ●兵士入隊式

7月10日(日)の聖別会で、浅野友梨香准兵士の兵士入隊式がおこなわれました。新しい兵士の誕生を皆で喜びました。ハレルヤ!



佐野小隊

●社会鍋俳句コンテスト授賞式

第6回救世軍社会鍋俳句コンテストの社会福祉部長賞に、井上弘子さんの句が選ばれました。7月12日(火)、佐野小隊「あさぬまサロン」にて、関東東北連隊長藤井健次大佐補より授与式がおこなわれ、副賞の蒲鉾(宮城県女川町、蒲鉾本舗高政)を、参加者 16 人で堪能しました。



渋谷小隊

●下士官任命

5月22日(日)、東京東海道連隊長石川和男少佐出陣の聖別会席上、下士官の任命をおこないました。槌田優子兵士が嬰兒軍曹、冠野由紀子兵士が青少年部曹長に任命されました。



●PAS (青年のつどい)

6月26日(日)の午後、勝笹隆大尉・勝笹実香大尉の歓迎会として、PAS お好み焼き会をおこないました。暑い中でしたが、広島風と関西風のお好み焼きを2階のテラスで楽しみました。(参加者大人 13 人、子ども 5 人)



任官五年以内士官講習会

7月5日(火)～7日(木)、士官学校にて、対面・オンライン併用でおこない、5 人の中尉が参加しました。開会集会は司令官スティーブン・モーリス大佐及び軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が指揮し、中島美和大尉が通訳。司令官はヨシュア 14:7～12 よりメッセージ。続く証言会では、参加者全員が任地での恵みや、困難を通して受けた主の取り扱いを語りました。講演、グループディスカッションなどを通し学びを深めました。

閉会集会は軍国女性部書記西村和江少佐が司会をし、書記長官西村保大佐補がコリント 9:19～23 よりメッセージしました。一同で祈り、それぞれ献身の思いを新たにし、散会しました。

全国士官会

7月16日(土)午前 11 時より、ベルサール飯田橋駅前で、司令官指揮でおこなわれました。4 人の士官が証言をし、司令官はヨシュア 1:1～9 よりメッセージしました。午後からの就任式に先立ち恵みの時でした。



社会鍋による支援 福岡小隊

●生活困難者支援

コロナで一時休止していた活動を2021年11月に再開し、毎月第二月曜日に継続しています。4月18日には社会鍋資金より、お弁当、ペットボトルのお茶、『ときのこえ』、タオル、中古衣料品を配布しました。ふだんは感染防止のため駐車場でおこないますが、6月13日は小雨のため、換気や消毒など感染対策を講じて、ビニールシートを敷いた



6月13日のようす

玄関ホールで実施しました。毎回50人ほどが利用され、7月11日には予定を超える60人に配布しました。

◆克己週間報告

2022年全国結果 10,026,187円

皆様のご協力を感謝いたします

上野小隊 ●街頭給食

7月10日(日)午後、月に一度の山谷給食をおこない、88人が利用されました。一番暑い時間帯、利用者の方々は直射日光を避け日陰に並び、長蛇の列でした。暑い季節に一人ひとりの命が守られるように祈ります。



↑手作りカレー弁当の準備



第6回 救世軍社会鍋俳句コンテスト受賞作品

今回は全国から三百五十六作品の応募をいただきました。『ときのこえ』七月一日号でお知らせしましたが、ここに改めて受賞作品を紹介し、講評を掲載いたします。おめでとうございます。

選者・唐澤 南海子氏(現代俳句協会会員、
「岳」無鑑査同人、第27回俳壇賞受賞、日本基督
教団・信濃町教会員)

最優秀賞

ポーランド国境社会鍋並ぶ

神奈川県 田中 和美

評 ポーランドとウクライナは陸続き、その国境に社会鍋が置かれている。一方、目の前に迫りくる恐ろしい現実、同胞が血を流す光景には手の施しようがない。空しい。一日も早く平和が来ますよう祈ります。

優秀賞

チョコレート買ひに出掛けて社会鍋

静岡県 遠山 琴々乃

評 口に含むと甘くて溶けてしまうチョコレート。あ！食べたい、しかし思いもかけず社会鍋と出つくわす。迷った——でも今はとても幸せ。日常のささいな事を一句にした、高校生の意欲作。今後が楽しみ。

社会鍋風強ければ声の張り

愛知県 水野 大雅

評 社会鍋に喝を入れた作者、その言葉は簡潔明瞭「風強ければ声の張り」と、現場の空気を見事に伝えた。作者の今日の充実感、鍋への愛情も感じられる。

社会福祉部長賞

飢える子の世にある限り社会鍋

栃木県 井上 弘子

評 人間は食によって生き、自然や社会とながって行く。その柱となるのが食事。今、多くの地域で「子ども食堂」が生まれました。子どもたちの笑顔。社会鍋の役割はとてつもなく、大きい。

ほのぼの賞

革ジャンのポケット探る社会鍋

千葉県 梶 政幸

評 革ジャンのかすかな匂い、その深いポケットを探る大きな掌、探るといふ動作から、作者のじれったい気持ちまで伝わってくる。革ジャンと社会鍋の取り合わせ抜群！

百年を超えて途切れぬ社会鍋

青森県 高橋 亨

評 小さきもの、弱きものの側に立つそんな軸足を持つて生きていくことが大切。皆様の熱き思いが、百年を超えて今もなお社会鍋を支えます。

無言でも心は温し社会鍋

岡山県 貞住 昌彦

評 無言、重い言葉である。そんな生き難い世の中、しかし心の中は温かい。そんな気持ちをつまみもち続けたいものである。勇気づけられる一句。

佳作

人と人遠くつなげる社会鍋

野上 卓

玄関に社会鍋ある老いの里

浅野まり

進学を諦めた子へ社会鍋

三宅加代子

慈善鍋コロナの明日を拓く音

菅 喜久代

コロナ禍に師走の鍋は愛、届けむ

附田敦子

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第8回「平和の構築」(2)

(承前)

救世軍の立場の土台となるもの



1. 神の創造の初めにおいては、すべてが平和で包まれていた、と聖書は教えています。また、歴史の究極の完成時には、神が平和の王国を立ち上げられる、と教えています。聖書の創造の物語の中で、暴力は人類の歴史に罪が入ってきたことの印であるとされています。
2. 神の御心^{みこころ}は、隣人が愛されること、敵でさえも愛されることなのです。
3. クリスマンを含めて、人は皆、意見の相違、論争、不平をもちます。自分が間違っていた時には、それを認め、悔い、謝罪し、赦し^{ゆる}を求めるべきです。たとえ、自分が間違っていないとしても、傷つけられたとされている人たちを探し出し、進んで和解をするようにと、聖書は教えています。
4. 聖書の中には、神が戦争を命じたり、認めたり、おこなったりすることを描く物語があることは否めませんが、そういう物語を扱うには、細心の注意が必要で

あり、イエスの人となりと教えをもとにすることが必要です。

小隊候補生サンデー
9月4日(日)

5. 平和の君であるイエスは、平和を構築する人は祝福されると言われました。また、右の頬を打たれたら、左の頬をも向けるようにと、弟子たちを励まされました。こう言われたイエスは、平和を構築する人が支払う犠牲がどのようなものであるかをよく知っておられました。
6. キリストの働きは、人と人との間の敵意の壁を崩し、和解をもたらすものであり、神と人との間についても同じことが言える、と使徒パウロは言いました。それゆえに、クリスマンはすべての人と、できる限り、平和に暮らすようにというのが、パウロの教えです。
7. 人々が不正と邪惡の組織に反対し、非難するようにと、聖書は教えています。
8. 神は正義を確立する権限を政府に与えています。それをおこなうには、悪を防止し、政府が権限をもつ共同体を安全で安心な場所とすることが必要です。このためには何らかの力を用いるための備えが必要ですが、政府がなすべきことは、共同体の人々が暴力から守られ、のびのびと生活できるようにすることです。

(次号に続く)



〈連載・第16回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

(6) 兵士となることへの呼びかけ

(承前)

- c) 軍令及び軍律の牧会ケア会議指針にのっとり、牧会ケア会議で受け入れられている。
- d) 兵士の誓約書に署名している。

兵士になることは、形式的な行為ではなく、簡単なことや当たり前のこととしてとらえるべきではありません。

西洋の近現代社会においては、証言^{あかし}を公にしたり具体的に言明することについて関心をもたなくなっています。その意味では兵士となるために要求されることは時流に逆らうようなことです。だから宣言するのです、はっきりと。制服を着用する救世軍兵士^{とくめい}は、いわば最前線にいるのです。兵士となった人は匿名ではられません。弟子となって気楽な人生を送ることはできません。兵士となることは、確実な回心の経験と、聖霊の内住による力によってはじめて可能となります。

この内住は兵士となるには欠かせません。入隊式自体は目的達成の手段の一つにすぎません。新しい兵士がキ

リストにある新しい命を告白し、救世軍に表される教会生活に正式に受け入れられるための手段です。前向きな、神に祝福された機会です。(本書の「聖礼典」の章の「洗礼についての声明」の項ではこのことを簡潔かつ詳細に説明しています。)

人生を変えるキリストとの出会いが確かであるならば、生活にも変化が訪れます。委員会*では兵士になることについて、徹底的に服従し続けることが求められるとしています。弟子としてイエスに従うという約束をしながら、師に服従し続けることを考えないなどあり得ません。救世軍の教理第9条でも明らかです。

「われらは、救いの状態の持続は、キリストに対する信仰と服従との持続によることを信ず。」

もしイエスが神そのものであり、ご自分を無にして死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順であったのなら、イエスに従う弟子たちも、もし弟子の名にふさわしくありたいと願うならば「自分の十字架を取って主に従う」でしょう。委員会*は、すべての兵士がキリストを主として心から絶対的に受け入れることに注目し、それを戦争にたとえて、弟子として犠牲を伴うと説明しています。犠牲を払わない弟子は本物の弟子とは言えません。

(続く) *万国霊的生活委員会のこと



加藤祥子少佐 天に召さる

加藤祥子少佐は、7月4日午後1時51分、高槻病院より召天されました。78歳でした。

加藤祥子少佐は、1967年、杉並小隊より士官学校『宣教者』の学年に入校し、1969年、中尉に任ぜられ、尾道小隊付の任命を受けました。同年11月、福岡小隊付、1971年に加藤秀夫大尉と結婚。その後、夫君と共に、大牟田小隊、岡山小隊、(兼)笠岡小隊、大森小隊で歴戦。1980年、ブース記念病院付、1983年、新光館付、1984年、月島小隊助手、1988年に月島小隊長の任を受けました。1995年、再び新光館付、1998年、川口小隊長、2005年、グレイス及びブース記念病院チャプレン、2006年に事業企画部(現・伝道事業部)付、2008年に40年永年勤続章を授与されました。同年、西日本連隊本部付、2009年からは(兼)神戸小隊長の任を受け、2010年4月に現役を引退。引退後も神戸小隊長として継続奉仕し、2011年3月に完全引退。43年間の士官の奉仕を全うされました。完全引退後は京都小隊の兵士として、福音伝道、社会鍋にも熱心にご奉仕されました。魂に対する情熱をもって、多くの方々に良い感化を残されました。

7月5日午後にお別れの時をもち、告別式は、家族葬として7月6日、京都小隊士官粟飯原順大尉の司式で、京都小隊会館にておこなわれました。御遺族の皆様の上に、神様の御慰めと平安をお祈りいたします。

救世軍公報

転任(カッコ内は継続任命)

補(兼)士官学校長代行

(人事・教育部長、(兼)教育部長)

添田美和少佐

二〇二二年四月二十二日付

新施設長

ブース記念老人保健施設グレイス施設長代行

黒木成人

二〇二二年七月一日付

ブース記念老人保健施設グレイス施設長

谷口清和
二〇二二年八月一日付

司令官

スティープン・モリス

召天

加藤祥子少佐(杉並小隊出身)は、二〇二二年七月四日、召天。

司令官

スティープン・モリス

士官候補生夏期訓練任命

左記の候補生は二〇二二年六月二十三日～八月十四日、次の任地で訓練を受けた。

吉田慎也候補生

関東東北連隊本部

特集 救世軍墓所

東京・多磨霊園には救世軍士官墓所、救世軍人墓地、社会部墓地があり、例年10月に召天者合同記念会がおこなわれています。また、各地の連隊、小隊でも納骨堂が備えられているところが多く、大切に管理されています。復活を待ち望みつつ、クリスチャンの信仰の表明として建設され、守られてきた各地の納骨堂を紹介します。

①名称 ②所在地 ③年間行事

西日本連隊

①救世軍墓地

②大阪市設瓜破霊園(大阪市平野区)第9区2番地は69～88号

③年一度、召天者記念墓前礼拝をおこなっています。今年は4月23日(土)におこないました(記事16ページ)。4月23日現在の納骨数は174です。



岡山小隊

①救世軍岡山小隊納骨堂

②岡山市平井字繰山米山甲地区下段市営墓地(東山墓地)

③イースター聖日の午後

に「墓前礼拝」を実施(賛美、聖書朗読とメッセージ、祈祷)。また、10月第一聖日(11月第一聖日の開催も)に「岡山小隊召天者合同記念聖別会」。賛美、召天者名簿朗読、証言、聖書朗読とメッセージなど。午後、記念愛餐会をもち、その後墓地へ移動して墓前礼拝。



札幌小隊

①救世軍札幌小隊納骨堂

②札幌市南区簾舞166番地 みすまい霊園内プラタナス105番

③8月第一日曜に召天者合同記念会(墓前礼拝)をおこなっています。



浪江小隊

①救世軍納骨堂

②福島県双葉郡浪江町西台

③現在震災被害のため休止中ですが、毎年、仙台小隊が、仙台小隊・浪江小隊合同記念会をおこなっています。納骨堂の清掃、維持は、戦友が帰省の際におこなっています。



名古屋小隊

①救世軍八事墓地

②名古屋市天白区天白町大字八事字裏山69番地名古屋市立八事霊園内

③イースターと9月

下旬の日曜日の午後には召天者合同記念会として墓前礼拝をおこなっています。



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

会を6月18日(土)に開催しました。演目は古典落語「茶の湯」、防災落語京都バージョン、そして、ヨハネによる福音書8章1～11節からの福音落語「罪^{つみ}赦された女」でした。

防災士の資格をもつパウロさんならではの「京都版防災落語」では、災害用伝言ダイヤル*171の利用方法を落語でわかりやすく説明してくださいました。(参加者31人) 次回はクリスマスイブの12月24日(土)の午後におこないます。

*地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板



京都小隊

●ゴスペル落語独演会
愛と希望を伝える宣教落語家、ゴスペル亭パウロさんの落語独演

江東小隊

●折り紙ミニストーリー

江東小隊では、小隊士官が子どもたちを学校に送る時、公園に子ども連れの保護者たちが大勢いるのを見たのをきっかけに、今年春頃から折り紙ミニストーリーを始めました。週に一度、折り紙作品を持って公園に出かけ、子どもたちや保護者の方々、公園でそれぞれの時間を楽しむ人々にお渡しし、小隊や救世軍について紹介しています。地域の人々と打ち解けて関係性を築くために良い機会となっており、戦友たちは、折り紙を折る人、公園に一緒に行く人、それぞれのできることを喜んで奉仕しています。

折り紙一つをお渡しし、短い言葉を交わすという、この単純なことが、心に痛みを覚えているかもしれない誰かに幸福をもたらし、神の愛を分かち合い、キリストに希望があることをお伝えする機会となり得ることを覚えて、感謝しています。



西日本連隊

●京阪神地区 召天者記念墓前礼拝 (納骨式)

4月23日(土) 午前10時30分より大阪市設瓜破霊園 救世軍墓地でおこないました。晴天の下、遠方からも納骨者のご遺族を中心に集い、久しぶりに墓前で共に主を拝しました。大阪セントラルホールバンド・アンサンブルの前奏「はるかにあおぎみる」に続いて、『救世軍歌集』255番「いつくしみ深き」をバンドに合わせ、賛美しました。司会の本村大輔大尉による開会祈祷に続き、3人の方々の納骨式を西日本連隊長鈴木智博大尉が執りおこないました。

大川信行兵士 (西成小隊 2018年10月6日召天)

藤澤俊治兵士 (神戸小隊 2019年1月13日召天)

大石キミ兵士 (泉尾小隊 2019年5月23日召天)

献花、祈祷の後、『救世軍歌集』144番「おどろくばかりの」を賛美し、連隊長が「とこしえの命」と題し、詩編100編3～5節からメッセージをしました。コロナ禍において2年間、召天者記念会が開催できずにいましたが、「まん延防止等重点措置期間」が解除になったタイミングで、納骨式を中心とした礼拝としておこないました。(出席41人)



救世軍
女性の働き
1922-2022
JAPAN

女性サンデー
10月16日(日)

聖別会の中で、一円献金(2023年より「きずな献金」と名称変更)の献納式をおこないます。今回の支援先はパプアニューギニアです。

パプアニューギニア及びソロモン諸島軍国の救世軍は、人身取引の被害者やジェンダー・バイオレンスの被害者を支援するためのシェルター「エラ・ビーチ・ハウス・オブ・ホープ」を運営しています。この建物の改装を支援します。

印刷所	救世軍本営
電話	東京(03)三三七〇八八一
〒101-0051	東京都千代田区
編集人	山谷 真
発行所	救世軍本営
印刷所	救世軍本営
発行日	毎月一日発行
定価	四〇〇円
振替	〇〇一八〇五四四〇〇

(取扱支部)